

学校による「さわやかちば県民プラザ」施設の活用

さわやかちば県民プラザ

1 はじめに

本県の社会教育の振興及び生涯学習の推進を図るため、平成8年11月15日、県立柏の葉公園の隣接地に開所した「さわやかちば県民プラザ」は、昨年、開所20年を迎えた。この間、平成12年には東京大学柏キャンパスが近くにオープンするとともに、平成17年にはつくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅が開業し、新しいまちが生まれるなど当施設周辺は大きく変貌している。このような中、さまざまな世代を対象とする各種の講座やイベントが開催され、来所者数は800万人を超えた。

しかしながら、全体として利用者の年齢層は高い傾向にあり、また固定化も進んでいるのが実情であるところから、次代を担う若年層を当プラザに呼び込むため、現在様々な方策を展開している。ここではその一例でもある、学校による当プラザ施設の活用について紹介させていただき、プラザの更なる活用を促進するものである。

2 利用状況

学校による利用が最も多い校種は、高等学校である。新年度のスタートにあわせた新入生対象の宿泊研修、海外研修に向けての国内語学研修、長期休業を利用した勉強合宿、新設される教育課程上のコース準備に向けたプレ合宿、総合的な学習の時間を利用した修学旅行事前研修などさまざまな形態で活用されている。

次いで多いのは、特別支援学校であり、宿泊研修や作業製品販売会などで活用されている。正面玄関前や多目的スペースであるアゴラを使って行われる作業製品販売会はいつも盛況である。さらに、近隣の小学

校からは、学校にはない茶室を使った茶道クラブの活動の場として活用されている。

3 学校による施設利用増加の背景

学校による施設利用が増えた理由の一つは、積極的な宣伝活動である。学校における、当プラザの認知度は高いとは言えない。この状況を打破するためにも、学校への宣伝は重要である。昨年度から、地区の校長会や教頭会において、当プラザの施設や各講座について説明する機会をいただきPRに努めている。

また、施設使用料減免対象の拡大も理由の一つとしてあげられる。平成26年4月に「教育長の所掌事務の一部を教育事務所の所長等に委任する規程」の一部改正があり、使用料減免の要件が県立学校を含む県の機関が主催する事業であることとなった。さらに、平成27年度より、市立高等学校及び市町村立学校までその対象が拡充された。現在、当プラザでは県内の公立学校が主催する教育課程内の学校教育活動については、施設使用料の減免措置を執っている。

4 これからの動き

学校の利用にあたっては、日程や必要な施設などを含めて十分な事前打合せを行い、学校側の要望をなるべく取り入れるように努めている。今後も、学校では体験できない時間と空間の提供をすることができる、生涯学習施設の特長を活かしたプログラムの開発に力を入れていきたいと考えているので、県内各学校の行事担当の方々におかれては、県民プラザの積極的な活用をお願いしたい。

県立中央博物館 平成29年企画展 「きのこワンダーランド」

県立中央博物館

県立中央博物館では、平成29年7月22日から12月27日まで、企画展「きのこワンダーランド」を開催する。中央博物館では平成元年のオープンから約30年間の活動により約3万点以上のきのこを収集してきた。今回の展示ではそのコレクションの中から房総の自然を物語るきのこを選びすぎて展示する。例えば、房総の光るきのこ、地球温暖化とともに北上を続けるきのこ、房総で発見された新種のきのこ、日本ではじめて報告されたトリュフの仲間等々。あわせて世界や房総のきのこ文化、里山ときのこの深い秘密についても豊富な資料で紹介する。

江戸時代から房総人はきのこ好き

房総の食用きのこ御三家として有名なハツタケ、アマタケ、ショウロ。千葉で育った年配の方々は、幼いときに食べたハツタケの味が忘れられないという。そして、この御三家は若いマツ林に見られるきのこである。何故これらのきのこが房総を特徴付ける野生きのこになったのだろうか。

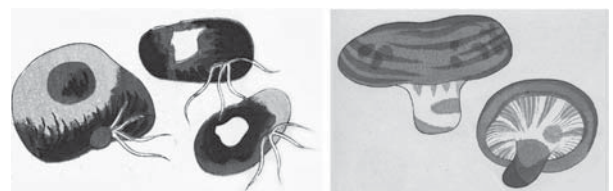
房総半島は標高が高いところでも400mほどしかなく、人為の影響を受けない場所ではドングリがみのる常緑シイ・カシの照葉樹林が覆っていた。江戸時代以降、そんな森を伐採し、身近な森を里山として管理するようになった。里山からは落ち葉や枯れ枝を採取し燃料や堆肥として利用する。林内から落ち葉などの有機物が常に除去されるようになると、有機物が少ない環境を好むきのこが増えてくる。そんなきのこがハツタケ、アマタケ、ショウロだった。そしてこれらのきのこはマツと仲良しである。仲良し（共生する）のきのこが里山に増えるに従い、マツも元気になり、江戸時代から昭和の前半にかけて、房総半島はマツ林に覆われるようになった。

またマツの薪炭は、火力が強いというこ

とで、近くの江戸では重宝された。そしてマツ林から採れる野生のきのこは江戸時代から格別に愛されていた。金ケ作（現在の松戸市）の名主がハツタケを独り占めしようと山留めをおこない、怒った村人が奉行所に訴えた、という記録も残っているという。そんな理由でマツは大事に育てられ、房総は長い間マツ林の景観となった。そうしてマツ林のきのこは故郷の味となり、里山のマツ林は、房総人の味覚まで支配したともいえるだろう。

照葉樹林はふるさとの森

それではマツ林以前の森はどうなったのか。房総半島がマツ林となる前、房総半島はシイ・カシ林に覆われていた。この森はヒマラヤ中腹から中国南部をへて沖縄から西日本に広がる森である。この森から一つのきのこが発見された。2002年に新種記載されたシロオビテングタケ。その後、千葉県はおろか、他の世界のどこからもこの種類は見つかっていない。シイ・カシ林に見られるテングタケの仲間は、この森と共進化したと考えられ、ネパールから中国南部をへて西日本に広がるような分布域をもっている。きっとこのシロオビテングタケも同様な分布域を持っていたのだろう。それが伐採や森の消滅などにより、アジアの片隅にある房総の森にひっそりと生き残ったのではないだろうか。房総の森はそんな種類も見られる貴重な森であることをきのこは教えてくれる。



岩崎灌園著「本草図譜」1844年（県立中央博物館蔵）

総セに来たら、カリキュラムサポート室へ！

【県総合教育センター 本館1F】

県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発担当



カリキュラムサポート室は、先生方と学校を支援する事業として、一つ目に「教育支援活動」①図書資料の閲覧、②視聴覚教材の貸出、③研修場所の提供。二つ目に「教師力アップを目指した塾や研修の開催・相談活動」を行っています。

今回は、「教育支援活動」を中心に4つの部屋と1つの展示室の内容について御紹介いたします。

1 A 101 号室

県内教員による各教科等の学習指導案（幼稚園、小・中学校、義務教育学校、高等学校）、長期研修生研究報告書、私の授業レシピー（高等学校）、千葉県刊行物が閲覧できます。（学習指導案は総セのホームページから検索ができます。）

2 A 102 号室

各種教科書、教育月刊誌（約40誌）、学級経営、授業づくり等の教育図書の閲覧ができます。

3 A 103 号室

国・都道府県・大学・各種教育研究会等の刊行物を閲覧できます。

4 A 104 号室

道徳や特別活動等の授業、職員研修で活用できる様々なジャンルの視聴覚教材があり、大型液晶モニターで視聴することができます。1回に5本、2週間までの貸出もできます。（視聴覚教材は総セのホームページから検索ができます。）

5 <新規> JICA（独立行政法人国際協力機構）

体験型展示室 国際理解に対する理解の促進、国際理解教育・開発教育の充実を目的として展示しています。（H28.7月から開設）



（JICA 体験型展示室）

当室は、平日（午前9時から午後4時45分）及び第4土曜日（5、6、7、10、1、2月 ※但し、第4土曜日が休日の場合は閉室）の午前9時から午後5時まで開室しています。

詳しくは、県総合教育センターのWebサイト「カリキュラムサポート室」を御覧いただくか、カリキュラムサポート室（043-276-1282）までお電話ください。皆様の御来室をお待ちしております。

「千葉県から全国へ」

～平成 28 年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展より～

県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当

県総合教育センターでは、毎年、「千葉県児童生徒・教職員科学作品展」を実施し、特に優秀な作品を全国展に出品しています。

平成 28 年度の全国展では、千葉県から出展された作品が数多く特別賞に輝きました。その中からいくつかを紹介します。

★第 53 回全国児童才能開発コンテスト

科学部門

才能開発教育研究財団理事長賞

「アゲハの観察パート 2

～ 26 ぴき 230 日間の記録」

千葉市立宮野木小学校 4 年 勝又 愛

審査評

アゲハが卵から蛹、越冬して羽化するまでの明るさや温度の影響を継続して調べ、自らの疑問を解明したすばらしい研究である。

※他にも千葉県から 2 人の児童生徒が入賞しました。

★第 60 回日本学生科学賞



日本科学未来館賞

「天気の研究パート 8」

船橋市立若松中学校

2 年 用松 里海

審査評

独自性が高く、新たな手法も用いながら研究し、長年、毎日継続し、努力と成果がよく見られる、すばらしい研究である。

入選 1 等

「超高圧の世界」

芝浦工業大学柏高等学校

チームさふあいあ

審査評



水溶液を 1 万気圧に加圧して氷 VI を作

成し、水の結晶と同形であることを確認。また、超高圧における無機物の溶解度の変化を調べた。

※他にも千葉県から 2 団体と 3 人の児童生徒が入賞しました。

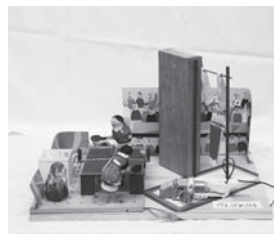
★第 75 回全日本学生児童発明くふう展

恩賜記念賞

「がんばれ日本」

君津市立南子安小学校 4 年 小石川洋介

審査評



リオ五輪の感動を表現した。鉄棒は発電機の回し方によって技が変わる。卓球は審判の立つ位置に

よってラリーの速度が変えられる。

経済産業大臣賞

「夏の大三角形を探せ !!

～松戸プラネタリウム～」

松戸市立第六中学校 2 年 小柳 和季

審査評

プログラミングのできるマイコンを利用しステッピングモーターで星座早見盤を任意の日時に回転できる。音声の解説も流せる。

※他にも千葉県から 14 人の児童生徒が入賞しました。

詳しくは県総合教育センター Web サイト「科学作品選集」を御覧ください。

また、平成 29 年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展は 10 月 14 日(土)15 日(日)の 2 日間、県総合教育センターで一般公開されます。児童生徒・教職員の作品等を是非、御覧ください。

※審査評は千葉県児童生徒・教職員科学作品展のもの

小・中学校で活用できる「SNS利用に関する指導モデルプラン」の紹介

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

1 はじめに

ソーシャルネットワーキングサービス (Social Networking Service, 以下 SNS) は、インターネットを利用した情報発信・交流ツールとして社会的な認知を得ており、近年では、児童生徒による SNS 利用率の増加に伴うトラブルの発生が問題となっています。

本センターでは、昨年度、県内小・中・高等学校6校の御協力のもと、授業で活用できるSNS利用に関する指導モデルプランを作成し、4月に公開しました。

2 指導モデルプラン

モデルプランは、印刷してすぐに授業に活用できるよう「指導案・ワークシート・事前事後アンケート」がセットになっています。校種やテーマに分け、以下の3つのプランを公開中です。

(1) 小学校高学年向け①

「話し言葉との違いについて考える授業」

目標：SNS のトーク機能における周りの人との考え方や感覚の違いについて知り、楽しく便利に会話するための方法について考える。

(2) 小学校高学年向け②

「写真の投稿について考える授業」

目標：SNS への写真投稿について，周りの人との考え方や感覚の違いについて知り，楽しく便利に利用する方法について考える。

(3)中学校向け

「SNS コミュニケーションのより良い利
用法について考える授業」

目標：SNS のグループトークを疑似体験し、より良いコミュニケーションを考える。

3 教材提示ツール

モデルプランとあわせて、無料通信アプリなど、SNSを利用したコミュニケーションについての授業を展開する際、グループトークなどの「やりとり」(図1)を提示するツールも開発・公開しました。

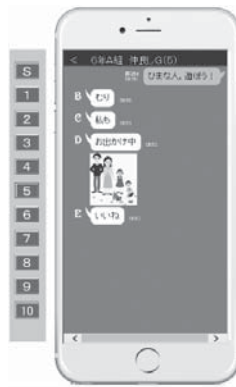


図 1 提示画面

インターネットへの接続は必要なく，ブラウザと Excel だけで利用が可能です。(図2)

グループ名	6年A組 仲良しG(5)				108.png	109.png	109.png	104.png	105.png	eatout1.png	eatout2.png
1 グループ名をつけます。											
表示順	食番番	食食内容	食食時間	食食開始	食食し	ごめん	びんGO	黙っていい	泣いていい	食番1	食番2
1	A	ひまな人。園ばう!	9:50	●	○	○	○	○	○	○	○
2	B	むり	9:50	●	○	○	○	○	○	○	○
3	C	私も	9:51	●	○	○	○	○	○	○	○
4	D	おなかけ甲	9:52	○	○	○	○	○	○	●	○
5	E	えいむ	9:53	●	○	○	○	○	○	○	○
6				●	○	○	○	○	○	○	○
7				●	○	○	○	○	○	○	○
8				●	○	○	○	○	○	○	○
9				●	○	○	○	○	○	○	○
10				●	○	○	○	○	○	○	○

実行

[print \(PDF\) 印刷](#) [print \(PDF\) 印刷](#) [print \(PDF\) 印刷](#) [print \(PDF\) 印刷](#)

図2 Excelで提示内容を編集可能

4 おわりに

紹介したモデルプランは、県総合教育センター Web サイトから、授業で活用できる指導案・ワークシート・事前事後アンケート・教材提示ツール等がパッケージとしてダウンロードできます。小・中学校の情報モラルの指導にぜひ御活用ください。

トップページ (<https://db.ice.or.jp/nc/>)

「メニュー」→「調査・研究」→
「調査・研究報告書」→「メディア教育」

※ Microsoft® Excel® を Excel と表記しました。

※ 提示ツールの画像等については、著作権等に配慮し利用しています。

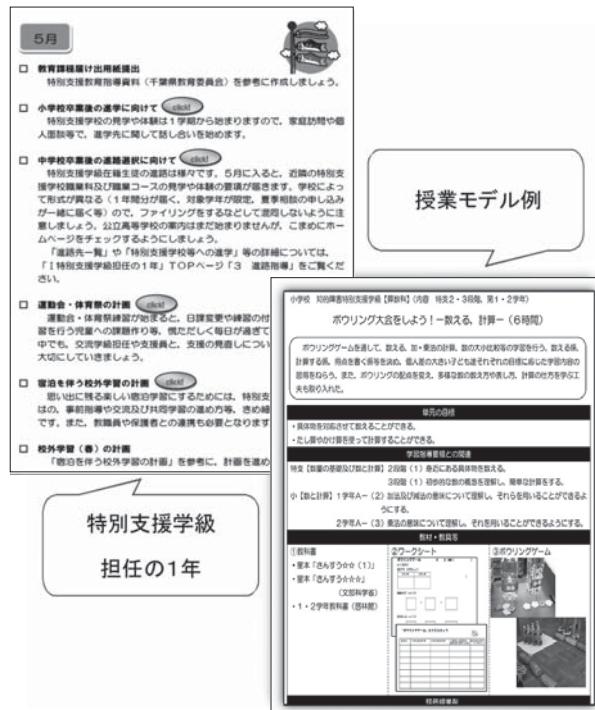
「特別支援学級担当者の専門性向上パッケージ」について

県総合教育センター特別支援教育部

現在、県内の小・中学校の児童生徒数は減少しているにもかかわらず、特別支援学級の在籍者数は、年々増加しています。反面、特別支援学級担任の5割弱が経験年数3年以下であるという調査結果があります。

このような現状から、特別支援学級担任に質問紙調査を行い、実践上の課題を明らかにしました。その結果を受けて、現在、課題解決の一助となるようなパッケージの開発に取り組んでいます。パッケージは、「特別支援学級担任の1年」「子ども理解と教育課程編成」「授業実践」「教材・教具」「教育動向」のコンテンツで構成しています。

今年度末に県総合教育センターのWebサイトにアップする予定です。是非、御活用ください。



特別支援教育講演会

「キレイやすい子どもに学校や家庭でどうかかわるか」

講師 早稲田大学教育学部教授 ほんだ けいこ 氏

通常の学級に在籍するキレイやすい言動を見せる児童・生徒の特性や背景を理解し、学校や家庭でのかかわり方について学びます。

※本田 恵子(ほんだ けいこ)氏

専門は、危機介入、アンガーマネジメント、特別支援教育。中学・高等学校教諭を経験する中で、学校カウンセリングの必要性を感じて渡米。特別支援教育、危機介入法等を学び、カウンセリング心理学博士号取得。玉川大学人間学科助教授を経て、現職。学校、家庭、地域と連携しながら児童・生徒を包括的に支援する包括的スクールカウンセリングを広めている。著書には「キレイやすい子の理解と対応」(ほんの森出版)「キレイやすい子へのソーシャルスキル教育」(ほんの森出版)。

- 期 日 平成 29 年 10 月 28 日(土)
- 時 間 午後 1 時 30 分～午後 4 時
- 定 員 150 名(受付:午後 1 時から)
- 場 所 県総合教育センター 大ホール
- 申込み 電話, メール, F A X (先着順)
※手話通訳等が必要な方は、申込みの際にお伝えください。
※メールで申込みの際は、①氏名、②所属
③当日可能な連絡先を御記入ください。
※FAX 申込み用紙は、HP を御覧ください。
(<https://db.ice.or.jp/nc/tokushi/>)
- 締 切 平成 29 年 10 月 13 日(金)
- 申込先 県総合教育センター特別支援教育部
T E L 0 4 3 - 2 0 7 - 6 0 2 3
F A X 0 4 3 - 2 0 7 - 6 0 4 1
メール s o s e t o k u s i @ c h i b a - c . e d . j p